

放射線科

部長 宮崎 延裕

2020 年はいずれのセクションも COVID-19 対応に追われた 1 年であったと思います。

人事

長らく常勤医 3 名が続き、多忙を極めていましたが、常勤医 1 名が着任し、読影環境は大きく改善しました。併せて若干の変則勤務シフトも導入し（常勤読影医が日曜半日滞在）、より迅速な読影レポート提供ができるようになりました。

初期臨床研修医のローテーションも延べ 13 名と前年同様でしたが、2 回目の選択者が 4 名と例年より多く、より深い研修ができたものと考えます。

高知大学からの学外実習はコロナ禍で中止となりましたが、1 名愛媛大学からの見学者がありました。

ハードウェア

本館 1F 設置の CT は導入から約 17 年が経過しましたが、ER 対応で使用頻度が高く、老朽化が目立ってきたこともあり、9 月に更新を行いました（GE 社 Revolution EVO）。

COVID-19 対策のため、CT 室も熱発患者では撮影時の対応、撮影後の部屋の消毒・換気が必要となりましたが、2018 年に本館 1F に CT を増設し 2 台体制となっていたことが幸いし、ER の熱発患者に対しては動線を分け、検査のスループットを落とすことなく、確実な対応ができる環境は速やかに準備できました。

近森病院本院の増改築からはじまったハードウェア更新は、旧 CT 更新で概ね一巡しましたが、使用頻度の高い血管造影装置は劣化によるマイナーな故障が増えてきています。外来センターの装置も 2011 年導入で 10 年を迎えるため、段階的に更新を検討していく必要があります。

検査件数

コロナ禍の受診患者減少により、各検査とも前年より減少傾向でした。

CT は前年 1940 件/月と過去最高の検査数でしたが、本年は 1790 件/月と減少しました。

MRI は前年とほぼ同数でしたが、これは昨年 MRI 更新・約 2 ヶ月間が 1 台体制で検査数が減少していたため、実質は CT 同様減少しているものと考えられます。

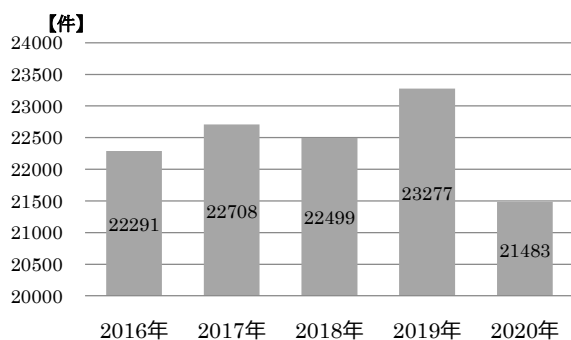


図 1 CT 検査件数（過去 5 年間）

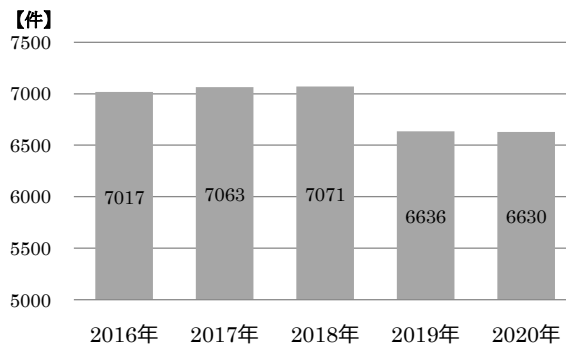


図 2 MRI 件数（過去 5 年間）

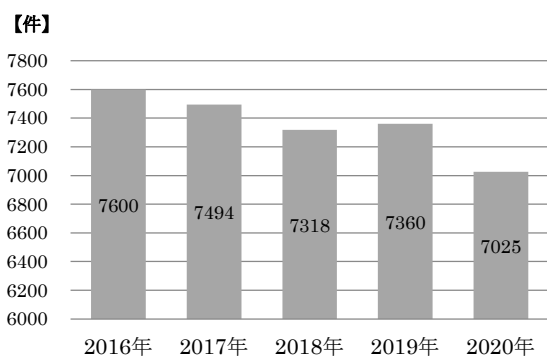


図 3 US 検査件数（過去 5 年間）

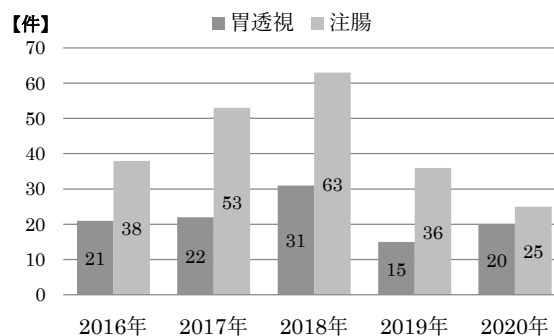


図 4 消化管造影件数（過去 5 年間）

IVR

検査件数減少に対し、IVR は血管系 320 件・非血管系 162 件と前年より大幅に増加しました。コロナ禍においても高度急性期医療・入院治療を必要とする患者はあまり減少しなかったことが見て取れます。

PTGBD は 50 件と相変わらず多く、IVR 学会症例登録では全国 2 位でした。
血管系では透析シャント PTA が過去最高を記録しています。

IVR 件数にカウントはしていませんが、PICC 件数が増加しています。当科ローテーションの研修医の指導・教育を行っていますが、近森看護学校の特定看護師コースの中にも PICC が今年度から組み込まれ、2 名の看護師が研修を行いました。今後、当院でも特定看護師の PICC 挿入や US ガイド下の静脈ルート確保が拡大していくものと期待しています。

表 1 実施手技件数（過去 5 年間）

実施手技名	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年
血管系 IVR 総計	278	339	329	290	320
シャント IVR	70	95	106	83	112
TACE(HCC)	63	81	65	57	47
TAI (HCC)	1	1	1	1	1
PSE	3	1	2	3	1
外傷・止血 TAE	47	46	38	45	30
その他 TAE (術前など)	16	19	25	12	11
膵炎動注療法	9	7	2	4	7
パパペリン動注療法 (NOMI)	6	5	4	10	8
末梢血管系 IVR	3	0	0	2	2
CAS	2	7	5	2	0
ステントグラフト	5	16	15	10	14
その他ステント	4	1	2	5	1
B-RTO	3	3	2	1	5
CV ポート	45	40	38	30	64
その他	1	17	24	25	17

実施手技名	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
非血管系 IVR 総計	146	136	125	120	162
PTGBD	37	47	49	35	50
PTCD	12	25	18	9	18
膿瘍ドレナージ(US 下)	36	26	17	37	34
膿瘍ドレナージ(CT 下)	13	11	13	9	20
胆管ステント	4	11	6	3	9
胆道その他	4	0	3	0	2
US 下生検	9	5	2	8	6
CT 下生検	9	9	8	10	12
その他	22	2	9	9	11

2021 年の展望

待望の読影医拡充で読影環境は大幅に改善しました。IVR に関しては現状維持が続き、関連他科医師の教育・共同や、高知大学放射線科専門医コースの専修医教育が必要となりますが、均質な治療提供が提供できるスタッフ確保にはまだ数年以上かかりそうです。

学術発表・講演会等

学会発表

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
診断に苦慮した AFX2 による EVAR 後末梢側 type3a endoleak の 1 治療例 A case of distal type 3a endoleak after EVAR with AFX2 that was difficult to diagnose	宮崎 延裕 清水 和人 細田 幸司 手嶋 英樹 衣笠 由祐 枝木 大治 入江 博之	第 49 回日本 IVR 学会総会	8 月 25 日～ 8 月 27 日 神戸/web ハイブリッド 開催